

# 共生社会システム学会ニュースレター

The Association for *Kyosei Studies*

HP <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aks/>

2009年4月15日発行 第7号

## 目 次

I. 2009年度「共生社会システム学会」大会開催のご案内	1
II. 2009年度大会個別報告募集	2
III. 編集委員会の活動報告	2
IV. 運営委員会事務局だより	2

## I. 2009年度「共生社会システム学会」大会開催のご案内

2009年度大会は、「環境共生社会創造のための教育・人づくり」を大会シンポジウムのテーマに掲げ、8月1日（土）に茨城大学農学部において開催されます。大会のプログラム（予定）は以下のとおりです。

### 午前の部

9:00 受付 開始

9:30～11:30 個別報告

### 午後の部

13:00～14:00 総会

14:00～17:30 2009年度大会シンポジウム

メインテーマ：「環境共生社会創造のための教育・人づくり」

開催日時：2009年8月1日（土曜）14:00～17:30

会場：茨城大学農学部講義棟 100 番教室

趣 旨：

現在、私たちは地球温暖化に代表される地球環境問題やエネルギー・資源の枯渇化、生活の豊かさや安全・安心の見直しなど様々な問題に直面しています。これらの諸問題を解決し、自然と人間が共存する持続可能な社会を構築することが21世紀の課題となっています。

この持続可能な社会を実現するためには、何よりもその社会の創造を担う若い人材の育成が大切だと思います。本シンポジウムでは、このような環境人材をどのように育成していけばいいのか、これまでの我が国の環境教育の経験や最近の国際的な持続可能開発教育（ESD）の取り組みなどを参考にしながら、その展開方向を探ってみることにします。

プログラム

座 長：岩佐茂（一橋大学）、竹村牧男（東洋大学）

第1報告：「持続発展教育の国際展開に向けた国連大学の取り組み」武内和彦（国連大学副学長）

第2報告：「持続可能な地域づくりに向けた環境教育の課題

－農山漁村での取り組みにふれつつ－ 降旗信一（（社）日本ネイチャーゲーム協会理事長）

第3報告：「大学における環境人材育成の取り組み－茨城大学の試み－」中川光弘（茨城大学）

総括コメント：朝岡幸彦（東京農工大学）

総合討論

閉 会

18:00～20:00 懇親会（大学生協こぶし会館食堂）

大会実行委員長 中川光弘（茨城大学）

---

---

## Ⅱ. 2009年度大会個別報告募集

つきましては、個別報告の報告者を募集致します。

報告希望者は以下の要領に従って、学会運営委員会事務局までご連絡ください。

- (1) 筆頭報告者は報告申込時に本学会員であること。会員でない方は入会手続きを行ってください。
- (2) 個別報告の申込みに当たっては、a)個別報告申請書と b)報告要旨 (A4・1枚一様式は、本ニューズレター裏側に示すとおり)の両方を提出すること。報告時間(予定)は報告20分、質疑応答10分です(報告者の人数によって増減する可能性もあります)。

提出方法:

学会運営委員会事務局まで、Eメールでの添付でお送りください。[yoshitak@cc.tuat.ac.jp](mailto:yoshitak@cc.tuat.ac.jp) (高橋)。

(CD-Rもしくはフロッピーなどの電子媒体に原稿ファイルを入れていただき、ご郵送いただいても結構です。その場合の宛先は下記の通りです。

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部 高橋研究室気付  
「共生社会システム学会」運営委員会事務局宛

提出締切日: 2009年5月31日(消印有効)

---

---

## Ⅲ. 編集委員会の活動報告

学会誌『共生社会システム研究』第3巻は、2009年7月中の発刊を目標に編集作業を進めています。

第3巻は学会大会シンポジウム・パネリストによる論文3編と一般投稿論10編程度および書評2編から構成される予定です。第4巻以降については随時、論文の投稿を受け付けておりますので、会員各位におかれましては奮ってご投稿ください。

投稿規程などの詳しいことは学会ホームページ (<http://jaks.exblog.jp/>) 内の「投稿規程」を参照してください。また、投稿原稿の執筆および提出の際は、同ホームページの「執筆要領」に従って作成・提出してください。

毎回「執筆要領」に従わない原稿が複数投稿されてきますが、前回の大会の総会の場合でも告知いたしましたように、「執筆要領」に従わない原稿は今後厳しく受け取りを拒否しますので、きちんと「執筆要領」および「投稿規程」を読んで、指示に従い原稿を作成して下さい。

投稿についての質問および問い合わせは、下記、編集委員長 武田までお願いします。

『共生社会システム研究』編集委員長 武田庄平  
国立大学法人東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 比較心理学  
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8  
E-mail: [takeda@cc.tuat.ac.jp](mailto:takeda@cc.tuat.ac.jp) / TEL: 042-367-5588 (ダイヤルイン)

---

---

## Ⅳ. 運営委員会事務局だより

- 本学会員・里深文彦氏から、ブダペスト国際科学史学会・特別シンポ「共生科学技術と社会」のご案内がありました。「2009年7月にブダペストで開催される国際科学史学会の特別シンポで「共生科学技術と社会」のSessionが正式に承認されましたので早急に学会主催者にシンポのあらましを報告することになっています。あくまでも個人資格の参加ですが、参加を希望していただければ主催者から招待状を出してもらいます。つきましては、共生社会システム学会で参加を希望する人がおられれば、里深までコンタクトしていただきたくお願いします。」。詳細をご希望の方は、高橋までご連絡

絡ください。

- また、本会会員の北野収氏（日本大学准教授）の編著になる『共生時代の地域づくり論』（農林統計出版、税込価格¥3,360、ISBN978-4-89732-154-7 C3036）が2008年10月30日に発売されたとのお知らせをいただきました。概要は以下のとおりです。ぜひお手におとりいただけたらと存じます。

（概要）大学で学ぶということはどういうことか？編者がすすめる「対話型教育」から生まれた成果としての本書が、「共生」社会へのみちすじを示す。編者のゼミに所属した歴代のゼミ生の卒論のセレクションと指導教員である編者の論文からなる全12章。自らの生活・文化・環境を守り、改善していくことが「地域づくり」の要諦。人々が幸せを実現するための力をつけることを、どうサポートできるか？本書が提示する「学び」の視点は、本当の住民のための地域づくりに新たなアプローチを教えてくれる。（内容）序 本書のねらいと各章の解題（北野収）。第1章 地域の発展を考える3つの視点（北野収）。第2章 地域づくりにおける住民参加の意義（北野収）。第3章 内発的循環型社会形成の学習プロセス—山形県長井市レインボープランを事例として—（竹島祐幸・北野収）。第4章 地域づくりと多面的機能発揮におけるキーパーソンの役割—兵庫県小野市きすみの地区の事例から—（谷河美香・北野収）。第5章 有機農業運動のパイオニアにみる運動の持続性の条件—千葉県三芳村の有機農業運動の事例から—（小笠原由美香・北野収）。第6章 有機農業グループの活動と新たな混住化—群馬県倉沢村の事例から—（北野収）。第7章 過疎山村における多様なリアリティが示す地域づくりの姿—島根県浜田市S町の事例から—（諏訪あす菜）。第8章 「ユニバーサル交流」にみる開かれた都市農村交流の可能性（遠藤健）。第9章 都市農業公園の存立条件—横浜市ふるさと村の事例から—（岩松良実・北野収）。第10章 ドッグランにみる行政・愛犬家・住民の関係性—「共益」から「公益」の創出のシナリオ—（澤井麻樹子）。第11章 村落開発支援におけるノーマルアクシデントとその帰結—NGOによるインドネシア村落開発事業を事例として—（小松雅史・北野収）。第12章 地域づくり，農村計画における「場所」と「空間」，地域での実践の意義（北野収）。結び 学生の潜在能力と対話型教育—この本はどのようにして生まれたか—（北野収）。

- 大会午前の部における個別報告への多数の応募をお待ちしております。若い研究者による研究途上にある試論的な報告も歓迎いたしますので、皆様の周りに適切と思われる方がおられましたら、積極的にご応募するよう呼びかけてください。

(大会報告要旨様式：A4判1枚) フォント：和文は明朝体、欧文・数字はCentury

左マージン 23mm

天マージン 28mm

右マージン 23mm

共生社会とは何か  
－ 共生社会へのみちすじ －

1行あき

タイトルは14ポイント、サブタイトルは10.5ポイント。中央揃え

府中花子・国分寺太郎\*  
(共生大学・\*共生研究所)

1行あき

著者名は12ポイント、所属は10.5ポイント。中央揃え

本文は10.5ポイント、1行全角46文字、行送り15ポイント、左右揃え

地マージン 28mm

共生社会システム学会

会長 小原秀雄 (女子栄養大学)  
副会長 尾関周二 (東京農工大学)  
津谷好人 (宇都宮大学)

運営委員会事務局

野見山敏雄 (運営委員長)  
高橋美貴 (運営副委員長)

共生社会システム学会ニュースレター 第7号 2009年4月15日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学府 野見山敏雄研究室 気付

TEL: 042-367-5687 E-Mail: nomisan@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会

